

## 6. 河川整備計画内容の点検【結果】

平成20年7月 庄川水系河川整備計画 策定

河川整備の実施

### 社会経済情勢の変化

- 庄川流域の関係市町村における総人口は横ばい傾向にあり、沿川の状況に大きな変化はない。
- 庄川流域の水田・畑面積は経年的に減少傾向にあるが、近年は横ばい傾向となっている。
- 日本海側の産業基盤となる主要交通網として、あいの風とやま鉄道、北陸自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道、一般国道8号が通過している。また、北陸新幹線や高岡砺波スマートICの開通により、今後の更なる地域開発が期待されている。

### 河川整備の進捗の整備状況

- 堤防整備の実施により、計画断面堤防の割合は整備計画策定時点の約72%から約82%まで向上しており、今後も継続して事業を進める。
- 急流河川対策が平成26年に完了した戸出地区では、平成30年7月洪水(大門観測所で観測史上第2位の水位を記録)でも、河岸の侵食等は生じず、対策効果を発揮した。その他の大門地区、上高岡地区、太田地区では平成28年度から事業に着手している。
- 利賀ダムは、ダム事業の検証に係る検討を行い、平成28年8月に事業継続が決定され、現在事業実施中である。

### 【点検結果】

引き続き、現計画に基づき、河川整備実施する。

## 【河川整備計画の点検について（補足）】

策定時に定めた目標及び策定時には想定されていなかった事象（社会情勢、新たな知見、河川環境の変化など）に対して、点検項目と結果・対応状況・今後の方針を整理し補足する。

### < 策定時に定めた目標 >

- ①河川整備計画に定める各目標に対する取組
  - ・洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標
  - ・河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
  - ・河川環境の整備と保全に関する目標
  - ・河川の維持管理に関する目標

### < 策定時に想定されていなかった事象 >

- ②河川整備計画策定以降に生じてきた変化や課題に対する取組
  - ・洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

【補足】:①河川整備計画に定める各目標に対する取組

洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

- ①戦後最大規模の洪水への対応
- ②急流河川特有の流水の強大なエネルギーに対する堤防等の安全確保
- ③危機管理体制への強化等
- ④大規模地震等への対応

目標	目標に対する実施項目	点検項目と結果	今後の方針
①戦後最大規模の洪水への対応	・堤防整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堤防整備状況 【事業の進捗状況及び進捗見通し】</li> <li>⇒庄川全体の計画断面堤防の整備状況が約72%から約82%へ向上</li> <li>⇒整備計画内容に対する整備状況は、約88%※</li> <li>【完了箇所】 新湊地区、大島地区、高岡地区※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き目標に対する事業を推進する。</li> </ul>
	・利賀ダム整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の進捗状況 【事業の進捗状況及び進捗見通し】</li> <li>⇒事業に必要な用地のうち69%を取得、家屋移転も100%完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き整備を推進する。</li> </ul>
②急流河川特有の流水の強大なエネルギーに対する堤防等の安全確保	・急流河川対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急流河川対策の整備状況</li> <li>【事業の進捗状況及び進捗見通し、流域の社会情勢の変化】</li> <li>⇒整備が完了した戸出地区では平成30年7月洪水でも河岸の侵食等は生じず対策効果を確認</li> <li>⇒整備計画内容に対する整備状況は、約27%※</li> <li>【完了箇所】 戸出地区※</li> <li>【実施中箇所】 大門地区、上高岡地区、太田地区</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・背後地のダメージポテンシャルが大きく、緊急性の高い箇所から順次急流河川対策を実施していく。</li> <li>・現在実施している、大門地区、上高岡地区、太田地区を引き続き推進させ、堤防の安全性確保に努める。</li> </ul>
③危機管理体制への強化等	・ハード・ソフト両面で水防管理体制の強化・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災情報の質の向上と防災意識向上に向けた取組み</li> <li>【事業の進捗状況及び進捗見通し】</li> <li>⇒雨量・水位情報の提供(雨量情報(XRAIN)、プッシュ型配信、Web等を通じたライブ映像等)、防災教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き雨量、水位情報の提供等により水防活動支援や警戒避難活動の支援に努める。</li> </ul>
④大規模地震等への対応	・耐震対策の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震対策の取組み状況の確認 【流域の社会情勢の変化】</li> <li>⇒堤防整備(右岸1.4k~2.8k)とあわせて耐震対策を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も必要に応じて、河川構造物の調査を実施し、耐震補強等の対策を進めていく。</li> </ul>

※河川整備計画に位置づけられている箇所です。完了している箇所。

## 【補足】：①河川整備計画に定める各目標に対する取組

### 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

#### ①流水の正常な機能の維持

#### ②良好な水質の維持

目標	目標に対する実施項目	点検項目と結果	今後の方針
①流水の正常な機能の維持	・流況等のモニタリング	・濁水の発生状況の確認 【事業の進捗状況及び進捗見通し】 ⇒ <u>近年濁水は発生しておらず、濁水流量は概ね正常流量を上回っている</u> 【実施箇所】雄神観測所、大門観測所	・引き続き流況等のモニタリングを実施する。
②良好な水質の維持	・水質モニタリング	・水質(BOD75%値)状況の確認 【事業の進捗状況及び進捗見通し】 ⇒ <u>全地点で環境基準値を満たしている</u> 【実施箇所】新庄川橋、大門大橋、雄神橋等	・引き続き水質モニタリングを実施する。 また、富山一級水系水質汚濁対策連絡協議会を通じた水質事故対応訓練を実施する。

### 河川環境の整備と保全に関する目標

#### ①自然環境の保全及び生物の生息・生育環境の連続性の確保

#### ②河川空間の利活用、歴史的、文化的施設の活用、連携・協働による河川管理の推進

目標	目標に対する実施内容	点検項目と結果	今後の方針
①自然環境の保全及び生物の生息・生育環境の連続性の確保	・生物調査の実施 ・水域ネットワークの形成 ・縦断方向の連続性の確保	・河川水辺の国勢調査による生物の種数等の確認 【事業の進捗状況及び進捗見通し】 ⇒ <u>魚類や植物の確認種数に大きな変化はない</u> ⇒ <u>急流河川対策と合わせ支川合流点の段差解消を実施</u>	・引き続き生物調査を実施する。 また、動植物の生息、生育等に配慮し、引き続き川の連続性(縦横断方向)確保に努める。
②河川空間の利活用、歴史的、文化的施設の活用、連携・協働による河川管理の推進	・水辺整備事業の実施	・環境整備事業実施状況 【事業の進捗状況及び進捗見通し、地域の意向】 ⇒ <u>雄神地区で水辺整備事業を実施。</u>	・引き続き河川空間の利活用の促進を図るとともに、地域と連携・協働し良好な河川区間の維持に努める。

【補足】:①河川整備計画に定める各目標に対する取組

河川の維持管理に関する目標

①既存ストックの有効活用を図るための、効率的、効果的な維持管理の実施

目標	目標に対する実施項目	点検項目と結果	今後の方針
<p>①既存ストックの有効活用を図るための、効率的、効果的な維持管理の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川の巡視や点検、河川管理施設等の点検・維持管理の実施</li> <li>・河川調査や水文観測の実施</li> <li>・計画的な樹木管理(樹木伐採)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・維持管理の実施状況の確認【事業の進捗状況及び進捗見通し】 ⇒河川の維持管理を適切に実施するために必要となる内容を定めた庄川維持管理計画を策定し適切な維持管理の実施に努めている</li> <li>・河川調査や水文観測の取組み状況の確認【事業の進捗状況及び進捗見通し】 ⇒簡易水位計や危機管理型水位計の設置による、洪水時の詳細な状況の把握に努めている</li> <li>・樹木管理(樹木伐採)の実施状況の確認【事業の進捗状況及び進捗見通し】 ⇒計画的に樹木伐採等に取り組み、河川管理施設等の健全な維持に努めている。また、樹木伐採等による河川景観の保全に取り組んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き適切な維持管理に努める。</li> <li>・引き続き河川調査、水文観測を実施する。</li> <li>・引き続き計画的な樹木管理(樹木伐採)、河道管理等に努める。</li> </ul>

【補足】:②河川整備計画策定以降に生じてきた変化や課題に対する取組

洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

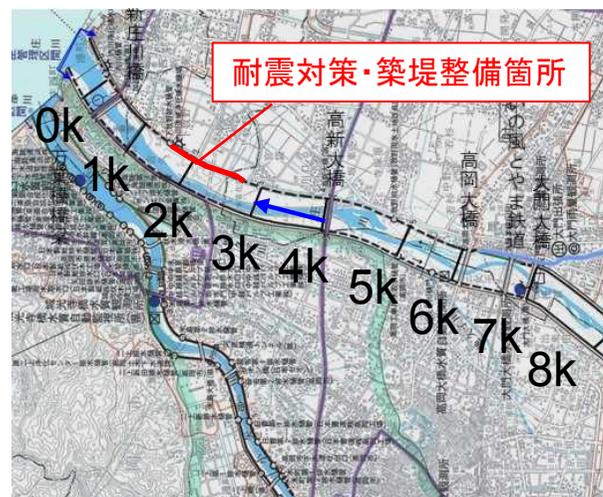
社会情勢・河川環境等の変化や課題	対応状況	今後の方針
<p>①洪水により洗掘・侵食などが発生</p> <p>②短時間強雨の発生頻度が増加 想定を超える浸水被害が発生 平成27年5月水防法改正 想定し得る最大規模の洪水・内水・高潮への対策(ソフト対策)の推進</p> <p>③平成27年9月関東・東北豪雨の発生 (鬼怒川の堤防決壊)</p> <p>④気候変動を踏まえた治水計画のあり方【提言】(令和1年10月)</p>	<p>・災害復旧や日頃からの維持管理により、<u>河道の管理を実施</u></p> <p>・<u>想定最大規模洪水の浸水想定区域図を作成・公表(庄川:平成28年6月公表)</u></p> <p>・堤防強化による破壊の進行を遅らせる取組み ⇒<u>危機管理ハード対策(堤防天端の保護)を実施</u> ⇒<u>整備延長 約17k(完了)</u></p> <p>・水防災意識社会の構築 ⇒<u>水防災意識社会の再構築のため、県・市町等と連携・協力してハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進するための協議会を実施</u></p>	<p>・想定される洗掘深に対して護岸の根入れが不十分な箇所や高水敷が狭く側方侵食に対して十分な幅が無い地点において、河川の洗掘や侵食に対する安全度を適切に評価し急流河川対策の必要性を検討する。 ・河川調査などにより河道状況を把握していく。</p> <p>・沿川自治体では、想定最大規模の洪水を想定したハザードマップを公表 ・広域的な避難や災害弱者対応などについては、引き続き、水防災意識社会の再構築のため大規模氾濫減災協議会を通じて、関係市町村等と連携・協力していく。</p> <p>・引き続き適正な維持管理に努める</p> <p>・引き続き水防災意識社会の再構築のため大規模氾濫減災協議会を通じて、関係市町村等と連携・協力していく。</p> <p>・水災害対策の考え方 河川整備のハード整備を充実し、早期に目標とする安全度の達成を目指す。 ・治水計画の考え方 治水計画立案にあたり、実績降雨の活用手法から気候変動による予測される将来の降雨を活用する方法に転換していく。</p>

## 【参考】洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

### ④ 大規模地震等への対応(耐震対策) 主な実施箇所

- 河川整備計画策定以降、平成25年度に右岸1.4k~2.8区間において築堤整備と合わせ耐震対策を実施している。今後も必要に応じて進めていく予定である。

[耐震対策の整備箇所]



[整備内容(耐震対策)]



[整備後の写真]耐震対策+築堤整備

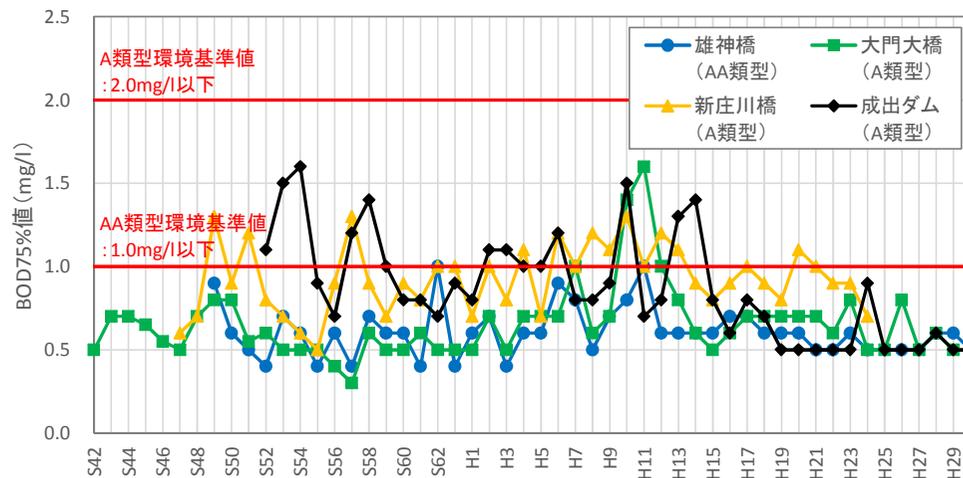


# 【参考】 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

## ② 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

- 環境基準地点の水質(BOD75%値)は、環境基準値(AA類型、A類型)を満たしている。
- 水質事故による利水および環境への被害を最小限にとどめるため、「富山一級水系水質汚濁対策連絡協議会」を通じて水質事故対策訓練を実施している。

[水質の経年変化]



※新庄川橋は、H25廃止

[水質事故時の対応]

平成29年度水質事故対策訓練



吸着材による油の回収作業の様子

平成30年度水質事故対策訓練



吸着マットを設置している様子

## 【参考】 河川環境の整備と保全に関する目標

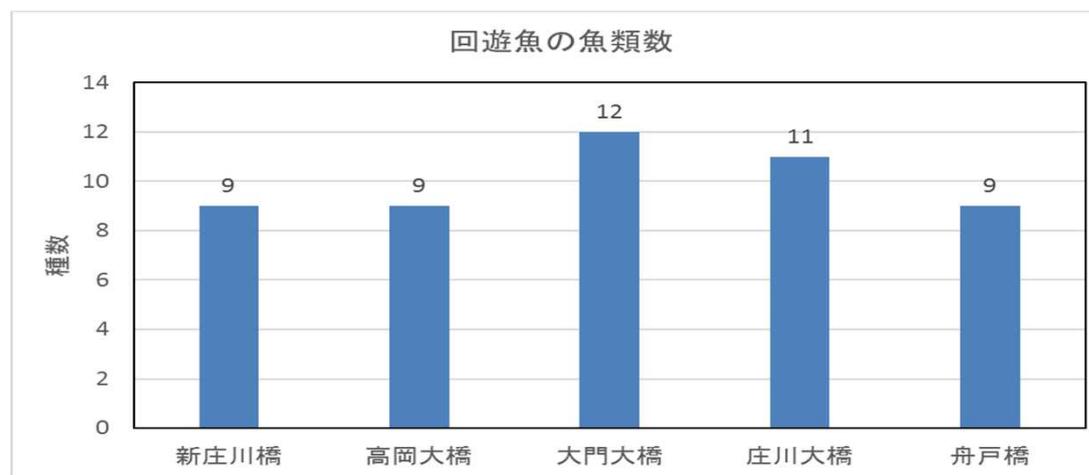
### ① 生物の生息・生育環境の連続性の確保

- 庄川本川の縦断方向の連続性については、生物の移動阻害となる河川横断工作物がなく、河川水辺の国勢調査（魚類調査：平成29年度）の結果から河川を移動する回遊魚に着目すると、6科16種の魚類が確認されており、アユ、ウグイ等が全川で確認されている他、遊泳力の弱いカマキリ等の魚類も上流で確認されている。
- 庄川本川において、縦断方向の連続性（生物の移動性）は確保されている。

#### [回遊魚の確認状況]

目名	科名	和名	調査地点				
			新庄川橋	高岡大橋	大門大橋	庄川大橋	舟戸橋
ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ			●		
コイ目	コイ科	ウグイ	●	●	●	●	●
サケ目	アユ科	アユ	●	●	●	●	●
	サケ科	サクラマス(ヤマメ)			●	●	●
カサゴ目	カジカ科	カマキリ	●			●	
		カジカ中卵型	●	●	●	●	●
		カンキョウカジカ		●			
スズキ目	ハゼ科	ミズハゼ	●				
		スミウキゴリ	●	●	●	●	●
		シマウキゴリ			●		
		ウキゴリ	●	●	●		●
		シマヨシノボリ				●	●
		オオヨシノボリ		●	●	●	●
		ゴクラクハゼ	●	●	●	●	
		旧トウヨシノボリ類			●	●	
ヌマチチブ	●	●	●	●	●		

河川水辺の国勢調査(魚類:平成29年度)における回遊魚の確認状況



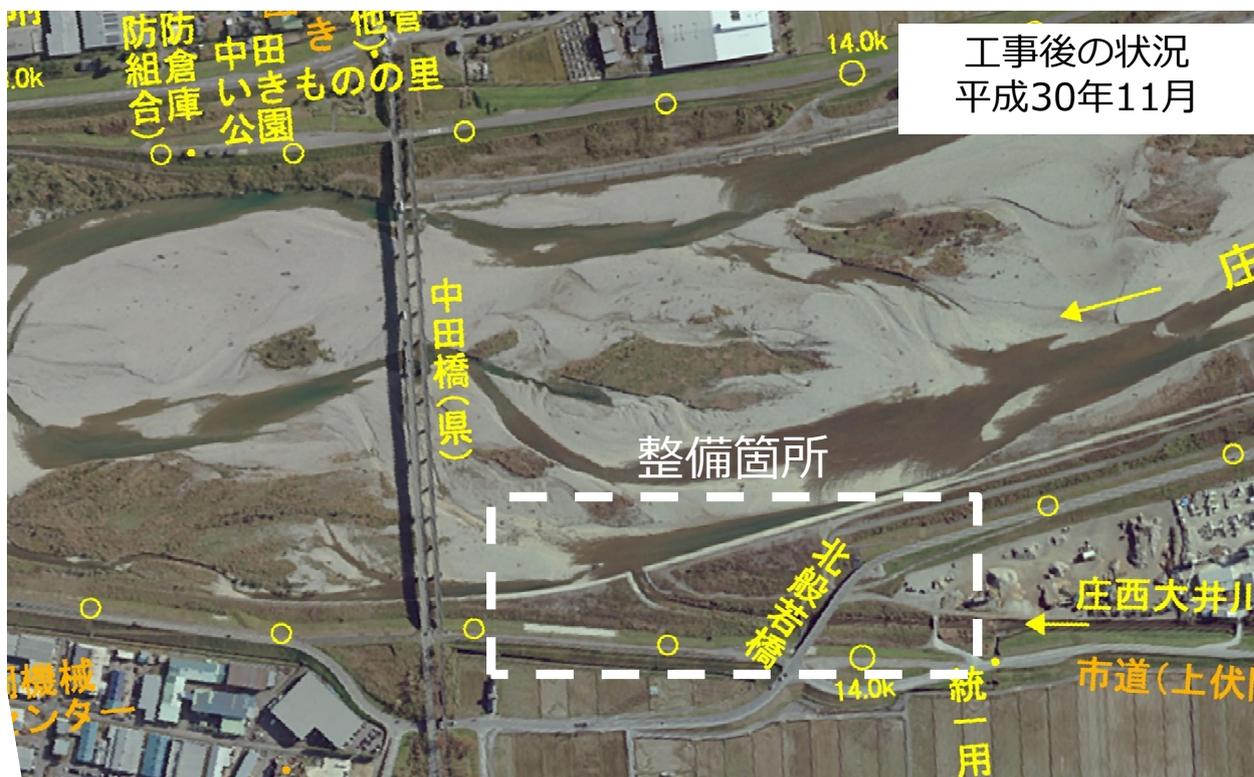
河川水辺の国勢調査(平成29年度)における回遊魚の魚類数

## 【参考】 河川環境の整備と保全に関する目標

### ① 生物の生息・生育環境の連続性の確保

[急流河川対策箇所における支川合流点の段差等の解消事例：庄川左岸14k付近]

- 堤防内の地盤高と流入する支川の高低差が大きく落差が生じている箇所では、急流河川対策と合わせて、連続性を確保するために、落差の解消等を図っている。

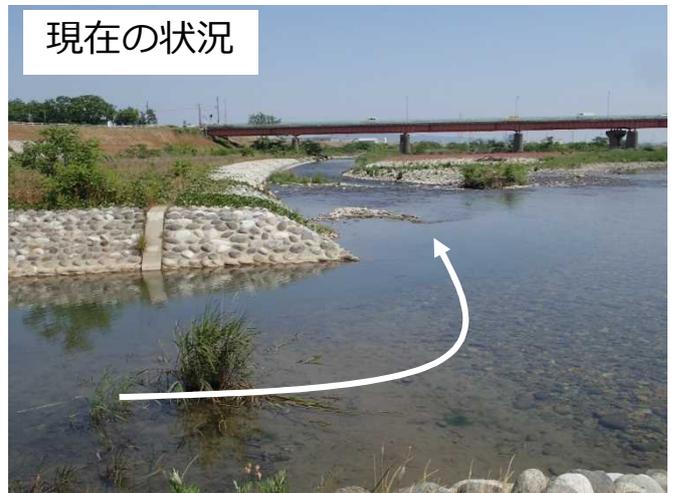


# 【参考】 河川環境の整備と保全に関する目標

[急流河川対策箇所における支川合流点の段差等の解消事例：庄川左岸 1.4 km 付近]



支川から本川を望む



本川の上流側から支川合流点を望む